

別紙2 新たに「選定」した建物や庭園

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
1	第10-040号	左京	まつのまんりょう 松乃鰻寮	上田恒次に設計を依頼し、昭和40年（1965）、上田氏自邸の隣に木造2階建てを建てたのが始まり。増築され、城を思わせる豪壮な店舗が完成した。
2	第10-041号	北	きぬがさきょうかい カトリック衣笠教会	昭和25年（1950）に創立したカトリック教会。旧聖堂は昭和27年（1952）、新聖堂は昭和33年（1958）に献堂された。新聖堂建設には祇園の芸妓からアメリカの大富豪夫人となった「モルガンお雪」と呼ばれる女性が大きく尽力した。
3	第10-042号	北	かみがもうめがつじちよう みんか 上賀茂梅ヶ辻町の民家	大正末期に建築された木造住宅。敷地内には通りに面して地蔵が位置し、ムクノキが四季折々の表情を見せる。火袋が丁寧に残され、小屋組を見ることができる。
4	第10-043号	上京	にしじんせい きょうかい カトリック西陣聖ヨゼフ教会	アメリカ・メリノール宣教会の支援により創設された教会。木造切妻屋根の教会堂は宣教師建築家ウィリアム・ニーリーの設計で昭和24年（1949）に建築。3つのアーチを2本の円柱で支えるシンボリックなエントランスポーチや十字架や植物を模した飾り窓を設けている。
5	第10-044号	左京	いけだけ 池田家	明治中期に建てられたと思われる木造中二階の民家。屋号は「定右衛門」。敷地の三角形になっている部分を利用して、座敷周りの庭をうまく配置している。かつては七竈（ナナカマド）があり、7番目のカマドで炊いたご飯が懐かしい。
6	第10-045号	左京	たかのきょうかい カトリック高野教会	アメリカ・メリノール宣教会の支援により昭和13年（1938）に創設された教会。伝道館と尖塔状の鐘楼がひときわ目立つ聖堂は昭和23年（1948）に建築。円柱が2本建つエントランスや、左右対称なファサード、ドイツ壁の外壁や飾り窓などは、宣教師建築家ウィリアム・ニーリーによって手掛けられたもの。
7	第10-046号	左京	きたやまそう 北山荘	昭和17年（1942）に府立京都第一中学校山岳部部員らによって建てられた山小屋。戦後、同中学校が鴨沂高校・洛北高校に分散編成替えされ、その山岳部のOB会が維持管理に務め、山を愛する多くの人々の憩いの場となっている。
8	第10-047号	左京	みのきちほんてん たけしげろう 美濃吉本店 竹茂楼	江戸時代後期に京都所司代から「川魚生洲八軒」の一つとして許可を受けたことに始まる料亭。別館は昭和42年（1967）から44年（1969）にかけて富山県の越中五箇山から移築した合掌造りの建物。

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
9	第 10-048 号	左京 ようしゅうじ 雍州路		昭和 43 年（1968）に民藝建築家 宮地米三の設計で建てられた精進料理店。店内には、重厚かつ機能的な宮地米三の民藝デザインが随所に見られる。
10	第 10-049 号	中京 きょうとちゅうおうしんようきんこ 京都中央信用金庫 まるたまちしてん 丸太町支店		昭和初期に旧第一銀行の支店として、建築家西村好時の設計により建てられた。鉄製の装飾が施された半円のアーチ窓が、印象的な外観となっている。
11	第 10-050 号	中京 にしきゆ 錦湯		昭和 2 年（1927）建築の木造 2 階建ての銭湯。換気用の高窓や 2 階に高欄を廻した外観は、戦前の京都市内の銭湯に多く見られたもので、煉瓦造の浴場には遊び心を取り入れたタイルが施されている。
12	第 10-051 号	東山 きょうとちゅうおうしんようきんこ 京都中央信用金庫 ひがしごじょうしてん 東 五条支店		大正末期に、旧村井銀行の支店として建築家吉武長一の設計により建てられた。石積み基壇の上にイオニア式柱頭を配置した柱を並べ、彫りの深い半円アーチ窓を配置し、当時の代表的な銀行建築の様式を備えている。
13	第 10-052 号	東山 ちよぼ 、や		祇園にある築 120 年を超えると伝わる元置き屋の町家。現在は昭和 29 年（1954）に創業の草履屋で、下駄、草履、舞妓の“おこぼ”を手掛けている。今も大切に使われているガラスのショーウインドウ、ショーケースの類や数寄屋風の技法で設えられた内装は、昭和 30 年代に改変されたと思われる。
14	第 10-053 号	山科 やましなきょうかい カトリック山科教会		三条通沿いにある幼稚園を併設した教会。昭和 28 年（1953）に建築された聖堂は、新興木造構造と呼ばれる木造のトラス構造で、鉄が少ない時代に国産の細木材で大空間を造る技術が用いられた。
15	第 10-054 号	下京 いけぜん 池善ビル		大正末期に建てられた 3 階建て鉄筋コンクリート造の小さな商業ビル。河原町通の市電建設に伴う道路拡幅のために土地の大半が買収されたことを契機に建設したビルは、昭和の激動期を乗り越え、建設当時の姿をとどめている。
16	第 10-055 号	下京 うえだけ 上田家		本 2 階建て表屋造の白生地間屋を営んでいた町家。建設当初は新しい生活のモデルとなるような町家として建てられたと思われ、応接室や座敷、離れの茶室は当時を偲ぶことができる。
17	第 10-056 号	下京 きゅうせいぐんきょうとしょうたい 救世軍京都小隊		昭和 11 年（1936）、ヴォーリズの設計により建てられたキリスト教施設。洗練されたゴシックの小さな教会堂は、木造でありながら、外観が石造のように見え、見事である。

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
18	第 10-057 号	下京	くぼたびれんどう 久保田美簾堂	明治 16 年（1883）創業の京すだれ店。建物は明治 33 年（1900）の建築と聞いている。通りに面した店の建具のガラス張は戦前からのもの。座敷は今も夏になると建具替えを行っている。
19	第 10-058 号	下京	びょうどうじ いなばやくし 平等寺（因幡薬師）	平等寺は、「因幡薬師」、「因幡堂」とも呼ばれ、病気平癒、がん封じ、縁結び、子授けなどの信仰がある。本堂は、幾度も焼亡しており、現在の建物は明治 19 年（1886）の再建。狂言「因幡堂」の舞台になっており、本堂前で狂言が行われる。
20	第 10-059 号	右京	こたにけ 小谷家	築 150 年と伝わる茅葺き屋根の主屋，乾蔵，辰巳蔵のある元庄屋の民家。内部にはおくどさんがあり，玄関脇にはウマが同居していた。庭には，枝垂れ桜が植えられており，道行く人の目を楽しませてくれている。
21	第 10-060 号	右京	ひらいけ 平井家	長屋門がある民家。門の柱に打ち付けてある祈祷札に「寛政十三年」とあることから江戸時代の建物の可能性がある。棚田をはじめ自然のある風景を残すためにも，この建物を大切に残してほしい。
22	第 10-061 号	右京	ほんだけ 本多家	夕焼けと棚田がとてもきれいな集落にある茅葺き屋根の民家。染色工房兼住まいとして活用しながら，懐かしくほっとする茅葺き屋根の風景を残したい。
23	第 10-062 号	伏見	おぎさけ 小篠家	昭和初期には青果商を営んでいた町家で，明治期の建築と思われる。入口土間の大和天井，ミセノマにあがる部分の沓脱石，トオリニワにはタイル張りのおくどさんや井戸などが残っており，座敷から見える庭には手水鉢や石灯籠，袖垣が配されている。
24	第 10-063 号	伏見	なめかわけ きゅうはしもとけ 滑川家（旧 橋本家）	昭和 12 年（1937）頃に建てられた前庭，主庭のある 2 階建て入母屋造りの住宅。1, 2 階とも主庭に面して座敷を設ける。中廊下を軸として，東側に玄関及び水廻り等，西側に座敷を含めた続き間が並ぶ。